

授業科目名 (英文名)	環境経済学 (経済学部・専門教育科目) (Environmental Economics)	科目区分 対象学生	
単位数	4.0	開講年次・ 学期	2
担当教員	新澤 秀則	所属	
オフィス・場所		連絡先	
講義目的及び到達目標	環境問題について、経済学の知識と思考力を身につけ、単に問題の重要性を訴えるだけでなく、実施されている政策や実施すべき政策に関して自ら評価できるような水準まで到達することを目標とする。		
講義内容・授業計画	<p>講義内容 経済主体間の関係としての環境問題： 環境問題とは何か。環境問題はなぜ発生するか。環境問題の解決とは何か。 環境の価値： 値段のない環境には価値がないのか。環境の価値をどのようにとらえるべきか。環境の変化に対し、消費者はどのように行動するか。 環境と天然資源の保全の理論： 環境や天然資源はどのように使うのが望ましいのか。 環境と天然資源の保全の政策： 現在の環境や天然資源の使い方でのいいか。環境や天然資源を保全するためにはどうしたらよいか。これまでどのような環境政策が実施され、現在どのような政策が検討されているのか。 国、司法、自治体、企業、NPOの役割は何か。 講義中に練習問題を解くことによって、理解を確認しながら進める。</p> <p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> ガイダンス、環境経済学とは、環境と経済活動のかかわり 基礎概念の復習 ～ 4 資源の所有、共有地の悲劇 ～ 6 外部性 - 経済主体間の関係としての環境問題、公共財としての環境、環境保全の費用負担原則 ～ 8 費用便益分析、補償原理、環境保全の目標、プロジェクト評価 コースの定理 0 環境の経済価値と評価手法、環境保全の便益 - 生命と健康 1 割引 - 将来の便益や費用をいかに評価すべきか、温暖化防止の費用便益分析 2 公害裁判 3 生命や健康に関わらない環境裁判 4 日本の環境政策、環境基準の決定方法 5 アスベスト問題の経緯 6～ 17 どのような排出規制が望ましいか、費用最小化 - 限界費用の均等化 8～ 20 環境税、欧州各国の環境税制改正、二重の配当 1～ 23 排出権取引 4 再生可能エネルギーの普及政策 5 廃棄物とリサイクル、デポジット・リファンド制度 6 土地利用規制 7 環境問題と自治体、企業経営と環境 8 ラベリング 9 環境保全技術、サステナビリティ 0 予防原則の経済学 1 期末試験 		
テキスト	履修者数が多い場合、はじめの数回の講義で冊子を販売する予定。少ない場合は、講義のウェブサイトの前年度の配付資料を掲示し、毎回の講義時に最新版を配付する。		
参考文献	テキストあるいは配付資料に記載する。		
成績評価の基準・方法	<p>成績評価の基準 環境経済学の基礎概念を十分理解した者に、単位を授与する。基礎概念の理解の程度に応じてCからA、そして応用までできるようになればSの成績を与える。 成績評価の方法</p>		

	<p>期末試験による。練習問題の解答など、講義中の発言を期末試験の成績に加算する。</p>
履修上の注意・履修要件	<p>可能であれば毎回出席をとり、出席率が5割未満の者には、期末試験の受験を認めない。クラブやサークル活動による欠席に特別な配慮はしない。 ミクロ経済学を履修済みであることが望ましい。 テキストははじめの数回の講義のうちに受け取ること。 テキストあるいは前年度の配付資料に目を通してから講義に臨むこと。また講義に使ったスライドは、講義後に、講義のウェブサイトに掲示するので、復習すること。</p>
実践的教育	<p>該当しない。</p>
備考	<p>講義のウェブページも参照のこと。{http://earth.eco.coocan.jp/EnvEcon.html}</p>